

別 紙

第59回 静岡県公衆衛生研究会 優秀演題ホームページ掲載要旨

分 科 会 名	第 1 分科会	演題番号	114
題 名	静岡県におけるSFTSウイルスについて		
所 属	環境衛生科学研究所		
氏 名	○鈴木秀紀、浅井希、小野田伊佐子、有田世乃、長岡宏美、大木正章		
要 旨 (簡 潔 に)	<p>重症熱性血小板減少症候群[Severe Fever with Thrombocytopenia Syndrome (SFTS)]は、2011年に中国で初めて報告されたフアイヤンシャン・バンヤンウイルス (Huaiyangshan banyangvirus) [旧名：SFTSウイルス]を原因とし、2013年に日本での存在が確認されたマダニ媒介性感染症である。SFTSは人獣共通感染症であり、マダニに刺されることによる感染のほか、発症動物の体液や排泄物から飼い主や獣医療関係者へ感染することが報告されており、公衆衛生上問題となっている。</p> <p>これまで、SFTSは三重県以西での発生であったが、2020年8月に静岡県初のSFTS発症ネコが西部地区で確認され、2021年3月にヒトでの患者が中部地区で確認された。その後もヒトや愛玩動物で続発しており、2022年11月現在ヒト10例、イヌ2例、ネコ6例において発症が確認されている。</p> <p>SFTSウイルスの伝播には野生動物が関与しており、ウイルスを保有するマダニが野生動物に付着した状態で移動することでSFTSウイルスが広範囲に広がると考えられている。</p> <p>本研究では、昨年度に引き続き県内のSFTSウイルス侵淫状況を把握するため、動物のSFTSウイルスの遺伝子検査および抗体検査を実施した。また、これまで静岡県内で確認されたSFTSウイルスの分子系統樹解析を実施した。</p>		